

会 議 録 (要旨)

会 議 の 名 称	平成29年度 第4回東村山市みんなで進めるまちづくり基本条例見守り・検証会議				
開 催 日 時	平成29年12月14日(木) 午後6時～7時30分				
開 催 場 所	東村山市役所いきいきプラザ3階 マルチメディアホール				
出 席 者 及 び 欠 席 者	<p>●出席者：</p> <p>(委 員) 西村委員(会長)、紺野委員(職務代理)、十時委員、高橋委員、鳥本委員、平野委員、山崎委員</p> <p>(市) 渡部市長、荒井副市長</p> <p>(所 管) 倉持市民協働課長、菊地市民協働課主査</p> <p>(事務局) 小林経営政策部長、武岡経営政策部次長、笠原企画政策課長、足立企画政策課主査、新床企画政策課主任</p> <p>●欠席者：なし</p>				
傍 聴 の 可 否	可	傍聴不可の場合はその理由	/	傍聴者数	0名
会 議 次 第	<p>1. 市長挨拶</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 前回会議録の確認</p> <p>(2) 答申(案)の検討</p> <p>(3) 次年度の進め方</p> <p>3. その他</p> <p>○平成29年度東村山市版株主総会報告</p>				
問 い 合 わ せ 先	<p>東村山市みんなで進めるまちづくり基本条例見守り・検証会議事務局</p> <p>(東村山市経営政策部企画政策課)</p> <p>住所：〒189-8501 東村山市本町1-2-3 電話：042-393-5111(内線2213)</p>				
会 議 経 過					
資料確認・開会					
1 市長挨拶					
<p>【市長】</p> <p>本日も第4回みんなで進めるまちづくり条例見守り・検証会議にご出席をいただき感謝申し上げます。今年には当市ではワークライフバランスの推進に取り組んでおり、今後協働を進めていく上で、それらをどう考慮しながら進めていくかというのが、課題である。今日は答申に向けてのご議論をいただくということで、よろしくご審議いただきたい。また、過日行われた、東村山市版株主総会についても、後ほど報告させていただきたい。</p>					
2 議事					
(1) 前回会議録の確認					
<p>○ 委員からのご指摘箇所を会長と事務局で確認した上で、前回第3回の会議録をホームページに公開することが決定された。</p>					

(2) 答申(案)の検討

- 事務局より、答申(案)について、説明する。

<市民文化のつどい>

【委員】

4ページの目的共有の原則の補足意見で、「長年続いている継続事業ということで、目的がきちんと共有されているというのが見えて素晴らしい。」とあるが、「・・・目的が共有されているというのが見えている。」程度でいいのではないか。

【会長】

「見えているのが評価できる」など、中立的な表現にした方が良い。

【委員】

最初の基本情報という言葉が妥当なのか、気になっている。

【会長】

他に何かいいアイデアがあるか。

【委員】

会が進む中で、アイデアを閃いた時に申し上げる。

<自治会タウンウォッチング>

【委員】

7ページの対等の原則の補足意見で、「対等な立場で協力しながら事業を実施できている」とあるが、もう少し具体的な意見があると良い。

【会長】

今一度確認して何かあれば対応願いたい。

【委員】

最初の目的共有の原則のところ、「自治会と市側の目的等が明確になっている。」における目的等の「等」は不要である。目的の他に何かあるのか。

【事務局】

会議録であったご発言をそのまま記載させていただいている。

【委員】

「等」ということで広げているのではないか。それらもあって評価が「非常に優れている」になっている。

【委員】

もうひとつ、総括のところ、3～4行目にかけて、「自分が住んでいるまちをみんな知っていくとい

うことがよく理解できる。」とあるが、少し読みづらい。

【会長】

趣旨は「よく理解できる」ではなく、「実施する意義は、みんなでまちを再認識できる点だ」ということだと思う。そういった趣旨で「理解できる」でいいと思うので、その方向で直していただきたい。

<美住リサイクルショップ運営事業>

【会長】

総括のところ、「成熟した活動となっており、行政の代行的存在として長く安全・安心な状態が定着している。」とあるが、「行政と連携して長く安全・安心な状態が定着している」とか、代行的という表現を見直してもらえるとよい。

【委員】

相互理解の原則の「改善策等についてよく話し合っている。」について、前の協働事業では、話し合っているが解決につなげるのが難しいことで点数が低くなっている。「改善策を話し合っており、今後さらに発展を目指していく前向きな姿勢が感じられる」まで言えるとよいのではないか。

【会長】

では、そのようなご意見も追加していただく。

<熊野公園管理業務に関する協定および運営への相互援助>

【委員】

13ページの目的共有の原則の「目的のすり合わせを行う必要がある。」の「目的」と、公開の原則のところで「目標の違いによる」の「目標」というのは同じか。

【会長】

形式論で申し上げると、目的があって、それを達成するために段階的に目標をおくというように、目的が上位概念で下位概念として目標があると言える。

【委員】

最初のところで、目的自体はより良い環境づくりということで共通している。ただ、目標というのはやはり違うものを用意しているな、と感じたので、それらがうまくかみ合っていないというところで評価をさせていただいた。

【会長】

両者の間に目標の違いがあって、そこが認識の齟齬が見受けられる、という趣旨か。

【委員】

そのとおりである。

【委員】

目標の違いとはどういう意味か。

【委員】

みどり公園課では、「歴史ある公園の再生を目指す」や、「楽しく安全・安心に遊べる公園を目標に」と書いている。市民団体は、「地域に密着した公園づくりを目指す」や、「東村山市と協定を結んで会が公園の維持整備の一部を協力することとなった」とある。公園をよくしていこうという意味では、目的は同じだと思うが、やっていく中での目標が、それぞれ市とボランティア側では立場が違うし、どこまで達すれば満足するのか、なども違う。それが齟齬という表現につながっている。

【会長】

補足意見については、委員からの代表的な意見を取り上げていくという趣旨なので、完全に首尾一貫する必要はない。そのため、委員によっては目的のすり合わせが重要だという意見もあれば、逆に、表現は違っても目的を共有しているように思う、という意見もあってよい。

ただ、厳しい評価が出ている以上、それに合う意見を取り上げていく方が適正だと思うので、上の段は、目的のすり合わせをもっとやった方がよい、という趣旨でよい。下段の目標の違いによる齟齬のところは、先ほどの委員のお話を伺うと、目的は共有しているけれども、目標が違うのではないかと、両者の間に認識の齟齬があるのではないかというご意見だった。そのため、「目標の違いや認識の齟齬が見受けられるため、情報共有にやや疑問が残る」という表現にして、目的も違うという意見もあるし、目標も両者の間でずれているという意見もあるから、もう少しきちんとコミュニケーションをとってください、という趣旨に繋げていくとよいのではないか。

【会長】

それでは最後に、基本情報について、なにかいいアイデアがあればご提案をお願いしたい。

【市長】

フォーマットが違うだけで、中身は全然変わってないのであれば、「ふりかえりシートの概要」などよいのではないか。

【会長】

「ふりかえりシートに基づく情報」のようにすれば、初めて見た人にも「ふりかえりシート」という名前で、事業をふりかえったデータということが理解できると思うので、「ふりかえりシートに基づく情報」ということでよいと思う。

【全委員】

了承。

【会長】

それでは、ここまでいただいたご意見をもとに、私と事務局に調整を一任させていただきたい。ご意見、感謝申し上げます。

(3) 次年度の進め方

【会長】

それでは次に、次第の3、次年度の進め方について、事務局からご説明願いたい。

○ 事務局より、次年度の進め方について、説明する。

【会長】

初年度については、まだやり方が模索段階だったということで、いくつかの事業の中から網羅的に集めていただいて検証したと記憶している。それが悪かったわけではないが、膨大なエネルギーを職員の方にかけてしまったということもある。そのため、前回のやり方を踏襲するのか、あるいは情報共有の手法の中で、一つ手法を設定して横串を刺すかたちで見ていくのか、2通り見方があるかというご提案である。それぞれ一長一短あるかと思う。あるいは、これ以外の進め方もあるのではないかというご意見があれば、ぜひご提案いただきたいという趣旨である。

【委員】

たしかに最初いただいた資料の分厚さとお手数を想定した時に、また年度が違うから同じことをやってほしいという気持ちが湧いてこなかった。もし、それを踏襲するのなら、過去のデータを再利用して遡ってやるという手もある。

B案に関して言うと、一つに絞るという原則であれば仕方がないが、複数を見てみたい。

【委員】

結果だけみていくとやはり、やってみないとわからないこともあるだろうし、いつもいい結果がでるとは限らないと思う。余裕を持った取り組みができるように、プロセス重視で進めていった方が良いと思う。

【会長】

情報共有のプロセスが着実に踏まれているかどうか見るような視点が必要じゃないかというような趣旨か。

【委員】

そのとおりである。

【委員】

当時どうやって評価していくかという話になったときに、いろいろな資料を我々がどう評価するかという課題があったので、具体的な事業を抽出して、どう取組んだか検証するという形式でこの三年間進んできた。今度は、これまでとは違うBに近い形式でやった方がいいのかなと思うが、たとえば情報共有に絞らずに、情報共有、市民参加、協働について市役所の部署ごとに自己評価シートを書いていただいてみるというのも良いと思う。

【会長】

今あったとおり、情報共有の手法を見ると、そのデザインが良い、わるいという話になっていく可能性がある。それはデザイナーの方や認知心理学を専門とした先生に見ていただいた方がよいと思う。もし情報共有を進めるとすると、ある基準をクリアしているかどうかというような、デザインではないところで、チェックしていかなければならない。そうすると、あらかじめ、市に基準となるガイドラインなどが必要になるが、情報共有についてはそのようなものがあるのか。それが無いとすると、情報共有を図るうえで配慮しないといけない点について、見守り・検証会議で検証しながら、提案をするということもできるかもしれない。あるいは、市の方でガイドラインを作ってもらって、それをちゃんとクリアしているかというのを我々が見るという進め方がスムーズであると思う。

私自身も今の段階で「これがいい」と決めては議論できないので、ご検討いただくとよいと思う。

【市長】

行財政改革の項目の中には、広報戦略のガイドラインを策定することになっているが、我々もどこを基準にしていくべきなのかというところが、なかなかまだ取りまとめられてない。来年度までの間にできるのか、あるいは同時並行で来年度議論いただく中で、私たちとしても情報共有をするために踏まなければならない基準や手続きをどのように定めていくかは課題にしたいと思っている。

【委員】

ある情報について何から知ったか、というような市民アンケートは実施しているのか。

【事務局】

毎年度、市民意識調査というのを実施しており、そのような項目もある。ただ、意識調査というのは、答える方の年代が高くなってしまいうので、それらをそのまま市民の意識として捉えるべきではないという感覚はある。

【会長】

引き続きご検討のほどよろしくお願ひしたい。

3 その他

【事務局】

答申については、本日いただいたご意見をもとに、会長と事務局で調整を行わせていただいて、1月26日に会長から市長へ答申いただく予定である。本日の会議録は、追ってメールでご確認させていただく。

【会長】

それでは本日は、以上で散会とさせていただきます。